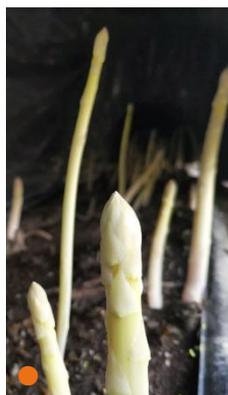
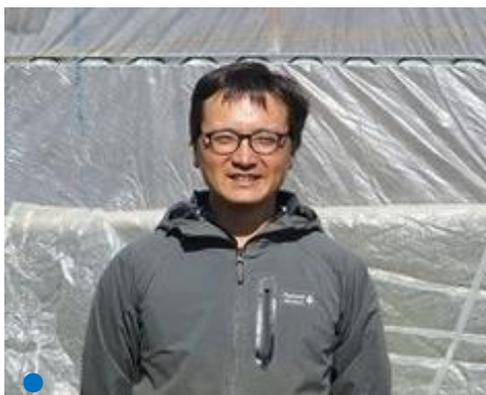


# 子どもの頃に見た秋田の景観を守りたくて

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



森川農園  
(大仙市) こすだ けん  
代表 小須田 顕

## 経営概況

経営面積 | 田: 15ha

畑: 0.6ha

作物 | 水稲、アスパラガス、ブルーベリー、さといも等

労働力 | 1人、繁忙期臨時雇用5～6名

販売先 | JA、飲食店、EC サイト



森川農園

大仙市に住む母方の祖父母が離農し耕作地を手放すことを知り、子どもの頃に見た景観を守りたいと思い、生まれた千葉県から秋田県に移住して農業に取り組んでいる男性がいます。祖父母のアスパラガス栽培の手伝いから始め、今では引き継いだ農地のほかに、地域の水稲の受託をするまでになっています。

## ▶ きっかけ

千葉県出身の小須田さんは、神奈川県内の大学を卒業後、都内の IT 企業に就職しました。システムエンジニアとして毎日夜遅くまで働く生活に疑問を感じていた時に、大仙市に住む母方の祖父母が、農業を引退して農地を売ろうとしていることを知りました。

子どもの頃に見た秋田の田畑の景観を守りたいとの思いから、祖父母を説得し、平成 23 年に大仙市に移住して農業を始めました。



● によきと土から出てきたアスパラガス

祖父母のアスパラガス栽培の手伝いから始め、さらに農業技術の習得をするため、大仙市の農業研修施設で畑作の基礎を学びました。今では、引き継いだ農地(2.1ha)のほか、農地を購入したり地域の水稲を受託するまでになりました。

## ▶ 取組

農園の名前は、先祖代々受け継がれてきた田畑をこれから先も繋げていきたいという気持ちを込めて、祖父母の名字である“森川”を使い「森川農園」としました。

経営面では、トラクターやコンバインは、一緒に作業をしている大規模農家から借用したり、近隣で使用しなくなったパイプハウスの再利用や、簡易暗渠を自ら設置するなど、経費節減の工夫をしています。



● 紅芯大根やわさび菜など様々な野菜を栽培

作物は同市内の飲食店への売り込みを何軒も行い、いくつかの店舗にアスパラガスを納入しています。野菜を出品しているイベントでは、直売所以上にお客様の反応が見えるので日々のモチベーションに繋がっています。

また、取引先の一つであるイタリアンレストランでは、冬場の農閑期にスタッフとして働いています。

## ▶ これから

右も左もよく分からないままがむしゃらに働いてきましたが、祖父母や地域の人たちに支えられて、農業を生業にさせていただいています。



● 夏にはブルーベリーが収穫されます

水稲の受託面積は今後も増える見込みのため、直播やドローンを活用しながら拡大を図っていきたくと思っています。条件の悪い水田や野菜作りに手が回らなくなるという悩みもありますが、祖父母から引き継いだアスパラガス栽培を軸に、様々な作物にチャレンジし、SNS などを使って顔の見える農園を目指したいと語っています。



● 里芋も栽培しています

(●印写真: 森川農園提供)

